



## 春によせて

副院長 黒田 琢彦

今年も桜の季節がやってきました。

病院前の桜並木も、朝日に輝く桜トンネルや仕事帰りに見上げる夜桜は息を呑むほどに本当に美しく、心和ませてくれる存在です。

桜（ソメイヨシノ）の寿命は約60年だそうで、中央通りの桜はほとんどが樹齢55年以上の老木とのこと、倒壊等の危険もあるのでしよう、皆さんもご存知の通り昨年から今年にかけて何本かが伐採され植え替えられています。長年目を楽しませてくれた木が見られないのは少々寂しい感じもしますが、若木の成長がまた楽しみでもあります。



先日の神戸新聞にも桜の伐採に関する記事がっていました。神戸市が桜の伐採の告知を貼り出したところ、小学4年生の男の子から「ぼくのだいすきな木を切らないでください」との張り紙が。これに対し市事務所は木を伐採するやむを得ない理由と桜を大切に思っていることに対する感謝の気持ちを再度貼り出しました。すると後日、同じ児童の筆跡で伐採の理由に納得した旨の手紙とひまわりの種が送られてきたそうです。

医療の場でインフォームドコンセント（十分な説明・理解の上での合意）ということが言われて久しく、日々外来や病棟で患者さんに説明をするのが我々の仕事でもあるのですが、忙しさにかまけて十分になされていないのではないかと反省することも多々あります。



今日ではインターネットで様々な情報を簡単に入手することができ、医療情報に関しても氾濫しております。

まさに玉石混淆、なかには明らかに間違っている情報や病に苦しむ患者さんやそのご家族の不安を煽るばかりの内容すら少なくありません。

情報の取捨選択が大事なのですが、専門の内容はなかなかわかりづらいもの、もしご自身の病気や治療でご不明の点がありましたら、お気軽にをかけていただければ幸いです。



病院前の桜並木は、中央通り沿いに156本と市役所北側道路沿いに43本の、約200本もあるそうです。